

知事、柏崎再稼働容認

12月県会で信問う

東電原発 国に対策7項目要求

花角英世知事は21日、臨時の記者会見を開き、東京電力柏崎刈羽原発6、7号機の再稼働を容認すると表明した。12月2日に開会する県議会12月定例会に再稼働の関連予算を盛り込んだ2025年度の補正予算案を提出する。県議会での審議を通じて県民の意思を確認し、補正予算案が可決されれば年内にも再稼働への同意を国に伝える見通し。



東京電力柏崎刈羽原発の再稼働容認を表明した花角英世知事。21日、県庁



再稼働の準備が進められている東京電力柏崎刈羽原発の6号機(右)と7号機

花角知事は「この判断を行ったことと、今後知事の職務を続けることについて、県議会の信任を得られるか、不信任とされるのか判断を仰ぎたい」とした。

さらに、柏崎刈羽原発の再稼働容認に当たり、原発の安全性を丁寧に説明することや、避難道路を早期に整備するといった7項目の対応を国に求めると述べた。

東電は6号機の早期再稼働を目指している。再稼働すれば、2011年に発生した東電福島第1原発事故以降、東電の原発としては初めてとなり、国内では15基目となる。

24年3月に政府は県と柏崎市、刈羽村に再稼働への理解を求めた。柏崎市の桜井雅浩市長と刈羽村の品田宏夫村長は再稼働を認める考えを示しており、知事の判断が焦点となっていた。